

別記様式第32号

県営^{ゆい}涌井^い地区土地改良事業計画書

[区画整理]

美里町
県央広域本部

目

第1章 目 的	3
第2章 地域及び地積	3
第1節 地域の所在	3
第2節 地 積	3
第3章 現 況	4
第1節 土地状況	4
1. 地形及び侵食の程度	4
2. 土地所有の状況	4
第2節 水利状況	5
1. 用水状況	5
2. 排水状況	7
第3節 道路状況	9
1. 道路概況	9
2. 改修を要する道路一覧表	9
第4節 地域農業の状況	10
第5節 地域環境の状況	11
第4章 一般計画	12
第1節 事業計画の要旨	12
第2節 営農計画	13
第3節 用水計画	14
1. 計画かんがい期間及び方式	14
2. 計画用水量	14
3. 水源計画	15
第4節 排水計画	16
1. 計画排水期間及び方式	16
2. 計画排水量	16
第5節 道路計画	17
第6節 農用地整備計画	18
1. 区画整理	18
2. 暗渠排水	18
3. 客 土	18

次

第7節 老朽ため池改修計画	該当なし
1. 洪水吐改修計画	該当なし
2. 堤体補強計画	該当なし
3. 取水施設改修計画	該当なし
第5章 主要工事計画	20
第1節 用水施設	20
1. 貯水池	20
2. 頭首工	20
3. 揚水機	21
4. 用水路	22
5. 計画用水系統	22
第2節 排水施設	23
1. 排水水門	23
2. 排水機	23
3. 排水路	24
4. 計画排水系統	24
第3節 道路及び索道	25
1. 道 路	25
2. 路線配置図	25
第4節 農用地整備施設	26
1. 区画整理	26
2. 暗渠排水	27
3. 客 土	28
4. 除 礫	28
第5節 老朽ため池改修施設	29
1. 貯水池	29
2. 堤体補強施設	29
第6章 附帯工事計画	30
第7章 工事の着手及び完了の予定時期	30
第8章 環境との調和への配慮	31

目 次

第9章 換地計画の概要	32
第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方	32
第2節 換地区の設定	32
1. 換地区の名称、所在、面積	32
2. 換地区を設定する理由	32
第3節 換地計画樹立の基本方針	33
1. 従前の土地の地積の基準	33
2. 用途別予定地積	34
3. 農用地集団化の方針	35
4. 非農用地の換地方法	35
第4節 土地の評価及び清算の方法	36
1. 評価の方法	36
2. 清算の方法	36
第5節 換地計画樹立の年度計画	36
第6節 換地処分の特則に関する特則	36
第10章 事業費の総額及び内訳	37
第11章 効 用	38
第12章 関連する事業	38
第13章 施設の管理	39
第14章 現況計画図面	40
1. 現況平面図	40
2. 計画平面図	40
3. 土地利用計画図	40
4. 主要構造図	40

第1章 目 的

(地区の概要)

本地区は、町の東部に位置しており地区の標高は概ね160m～180m程度の中山間地域である。また一級河川の緑川流域の緑川ダムや船津ダムの北側に位置し地区の南側に国道218号線が走っている。地形勾配は1/7～1/15と急峻で区画形状は未整備で不整形である。さらに区画面積は8a程度と狭いため農作業効率に支障が生じている。

地区内の道路は2.0m程度と狭く農地に隣接していないほ場もあることから大型機械の導入、農産物・生産資材の搬入・搬出に支障をきたしているところである。

地区内の用水についてはパイプラインでの灌漑となっているものの、全てのほ場に立ち上がりが設置されている状況ではないため、田越による灌漑を行っているほ場もある。

地区内の排水路についても、田越しによる排水がほとんどで、降雨時には排水不良による法面崩壊が生じている。

本地区は昭和30年から42年にパイプラインが整備された地域でもあるが、整備後50年以上が経過し担い手の高齢化や地域社会の変化に対応しうる農業基盤の構築や地域整備の一環として事業の緊急性が求められている区域でもある。

農業者の高齢化も進み、未整備な農地での営農は維持管理にも多大な労力を費やしていることから、地元からも区画整理の事業化が求められている。

(地区の現況・問題点)

地区の設定に当たっては、農振農用地区域(一部、農振農用地区域に編入する必要がある。)であり、営農体系や土地所有の状況・関係農家・耕作者との関連を持ち本事業に対し意欲的な区域としている。

(問題点を改善するための事業内容・目的)

ほ場の大区画化や用水源の確保、排水条件の改良を行うことで、耕地利用率の底上げを図るだけでなく、道路をほ場へ接続することで作物の生産性、品質を高く保つことができる。また、耕地の集団化や担い手に対する農地集積を促進し、効率的な営農を実現することで、農業経営の安定向上を図る。

第2章 地域及び地積

第1節 地域の所在

下益城郡美里町涌井

第2節 地 積

(第1表)

地目 市町村名	現 況 (ha)					計 画 (ha)				
	田	畑(樹園地)	道・水路	その他	計	田	畑(樹園地)	道・水路	その他	計
美里町	11.9	3.1	2.2	0.1	17.3	11.3	1.2	4.8		17.3
計	11.9	3.1	2.2	0.1	17.3	11.3	1.2	4.8		17.3

第3章 現 況

第1節 土地状況

1. 地形及び浸食の程度

(第2表)

地 目	田						畑・その他								受益地標高 (m)		備 考		
	1/1,000 未 満	1/1,000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 以 上	計	3° 未 満	3° ～ 8°	8°～15°			15° ～ 20°	20° 以 上	計	最高	最低			
傾斜 区分									8° ～ 12°	12° ～ 15°	8° ～ 15°								
面積(ha)				11.9		11.9			5.4								5.4	187	132
比率(%)				100		100			100								100		

2. 土地所有の状況

令和 5 年

(第3表)

区 分	所有別	個人有	個人共有	市町村有	県有	国有	計
面 積 (ha)		15.1		2.2		0.0	17.3
受 益 者 数 (人)		46		-		-	46
筆 数 (筆)		244		47			291
権 利 関 係		「所有権等」		「5条6項用地」		「5条6項用地」	
備 考 (所 有 者 数)		53					53

第2節 水利状況

1. 用水状況

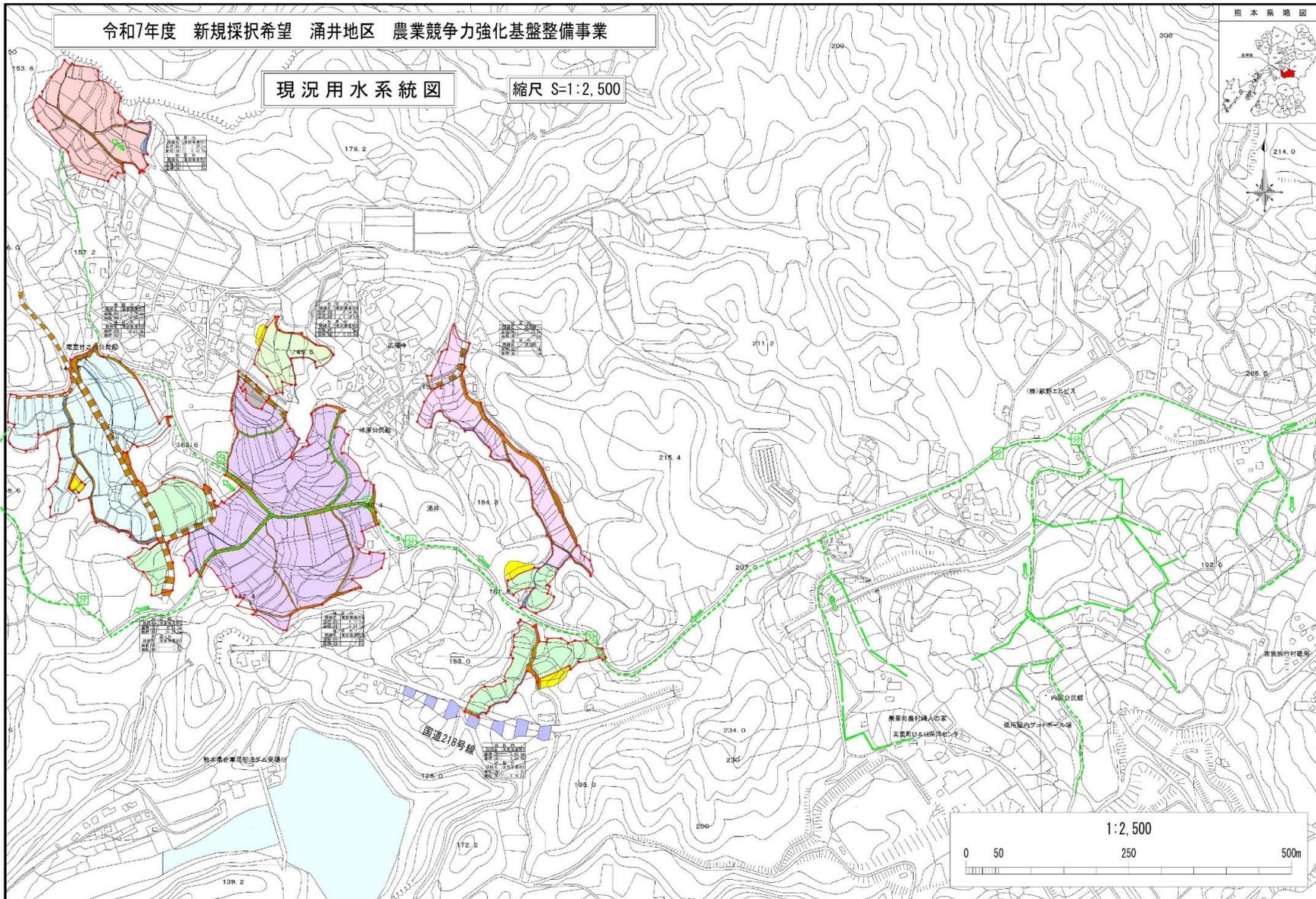
地区の現況用水状況は、美里町土地改良区東部事業部：筒川から取水し管水路で地区内に灌漑している。

東部事業部管内の管水路については、昭和30年～42年頃にかけてパイプラインが整備され、地区内には管水路及び地元で繋ぎこまれた管水路(ほとんどが露出管)が張り巡らされており、経年劣化等による漏水により水管理に支障をきたしているところである。

(1) 用水系統

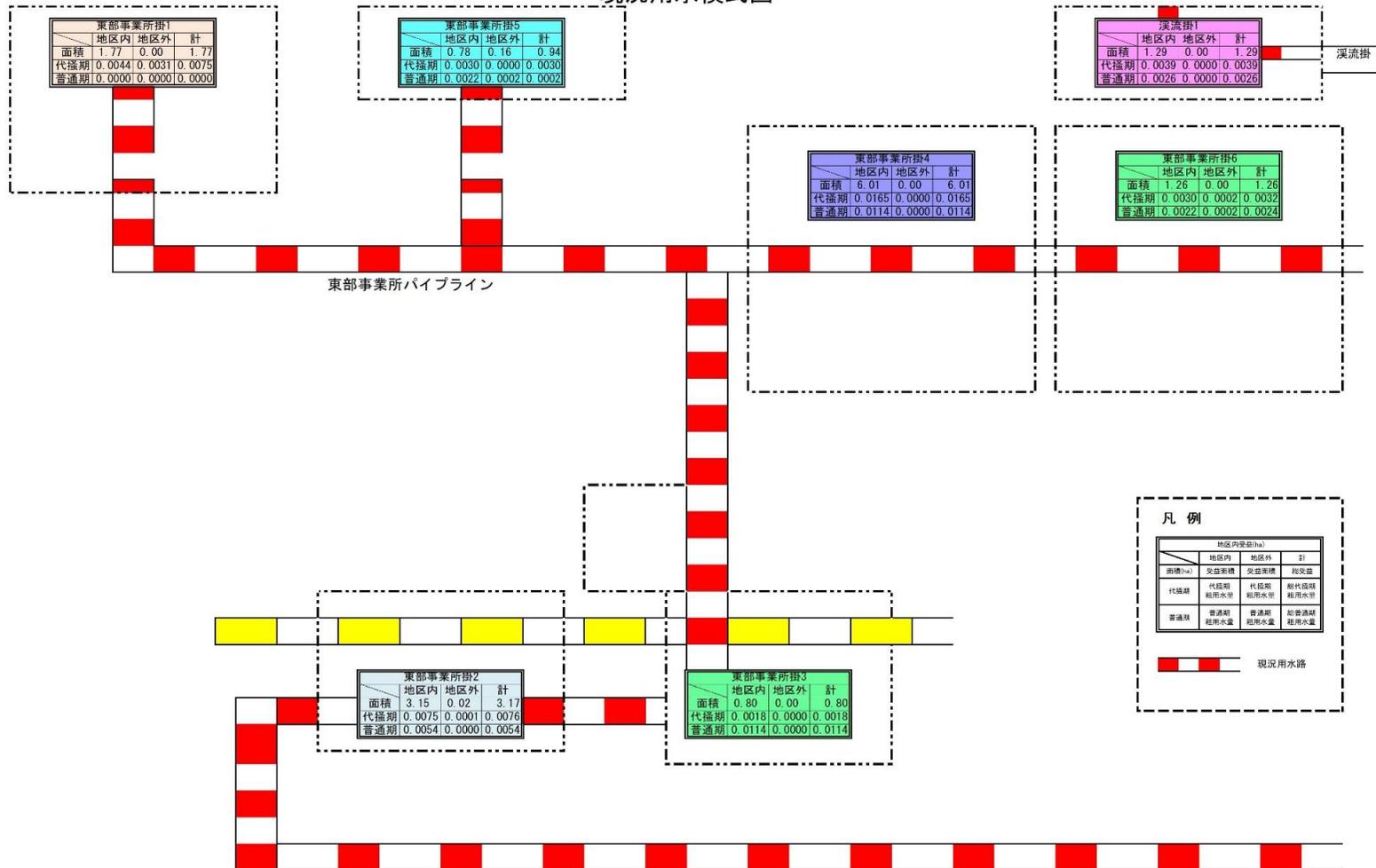
(5-1～5-2) ページの現況平面図を参照

(1) 用水系統



(1) 用水系統

現況用水模式図



(2) 用水施設 (該当なし)

(ア) 取水方法一覧

(第4表-1)

施設 / 項目	施設名 又は (箇所数)	水利権 (m^3/s)	慣行水利権 (m^3/s)	延べ取水量 (m^3/s)
貯水池				
頭首工				
揚水機				
自然取入口				
その他				
計				

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第4表-2)

施設 / 項目	施設名 又は (箇所数)	構造	規模 (m)	新設年 又は 更新年	改修を必要 とする理由
貯水池					
頭首工					
揚水機					
用水路					
その他					

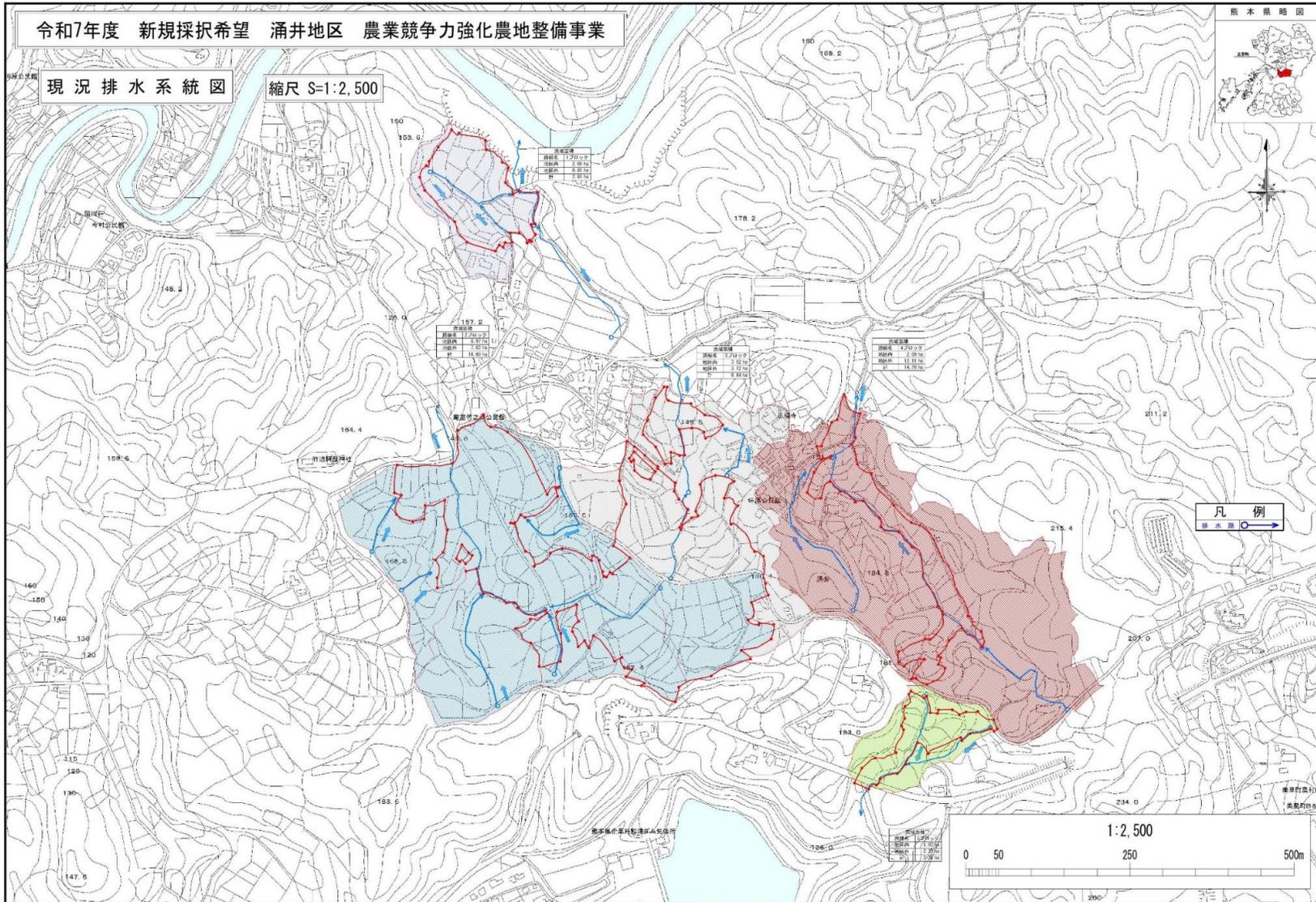
2. 排水状況

本地区の排水状況は、田越しによる排水がほとんどで、降雨時には排水不良による法面崩壊が生じ、維持管理に支障を来すとともに、排水としての機能が維持されず、早急な整備を必要としている。

(1) 排水系統

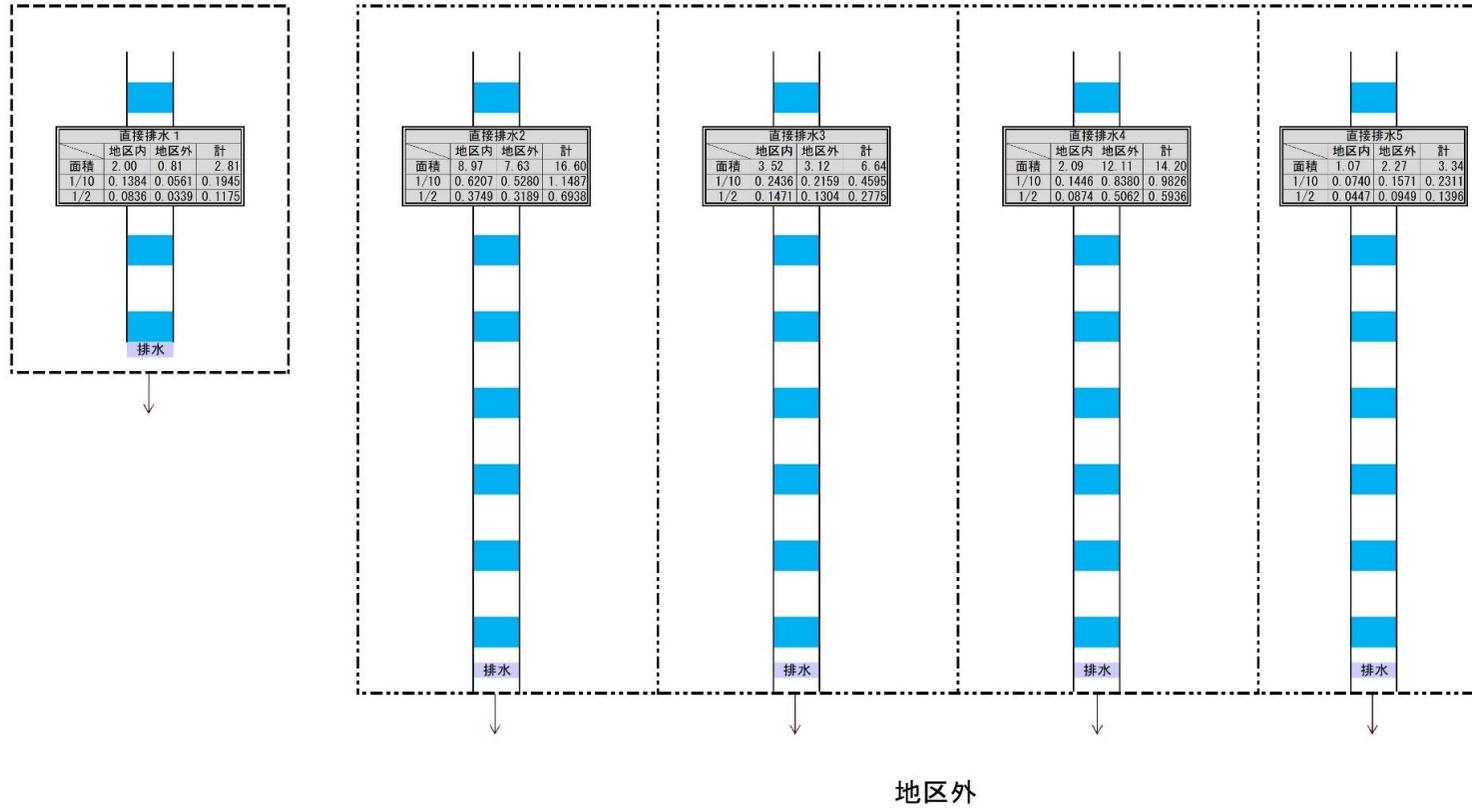
(7-1～7-2)ページの現況平面図を参照

(1)排水系統



(1) 排水系統(該当なし)

現況排水模式図



(2)排水施設

(ア)排水方法一覧表

(第5表-1)

施設		項目	施設名 又は (箇所数)	排水慣行 (m^3/s)	現況排水能力 (m^3/s)
自然		排水路	5	3.0164	3.0164
		排水樋門			
機械		排水機			
		その他			
計					

(イ)改修を要する施設の一覧表

(第5表-2)

施設		項目	施設名 又は (箇所数)	構造	規模 (m)	新設年又は 更新年	改修を必要 とする理由
自然		排水路	5	コンクリート	2,280	—	区画整理に伴う改修
		排水樋門					
機械		排水機					
		その他					

第3節 道路状況

1. 道路概況

地区内の道路については、幅員B=2.0～3.0m程度と狭く、急傾斜のため、その大半がCO及びAS舗装されている状況である。

なお、車両運搬や農作業する際には、田越しにて作業を行っているものも多く、輸送車種が制限され農業機械の大型化が阻害されるとともに、営農にも多大な支障を及ぼしている。このような状況から、営農規模拡大に向けた取組みにも大きな阻害要因にもなっている。

(1) 道路系統

(9-1) ページの現況平面図を参照

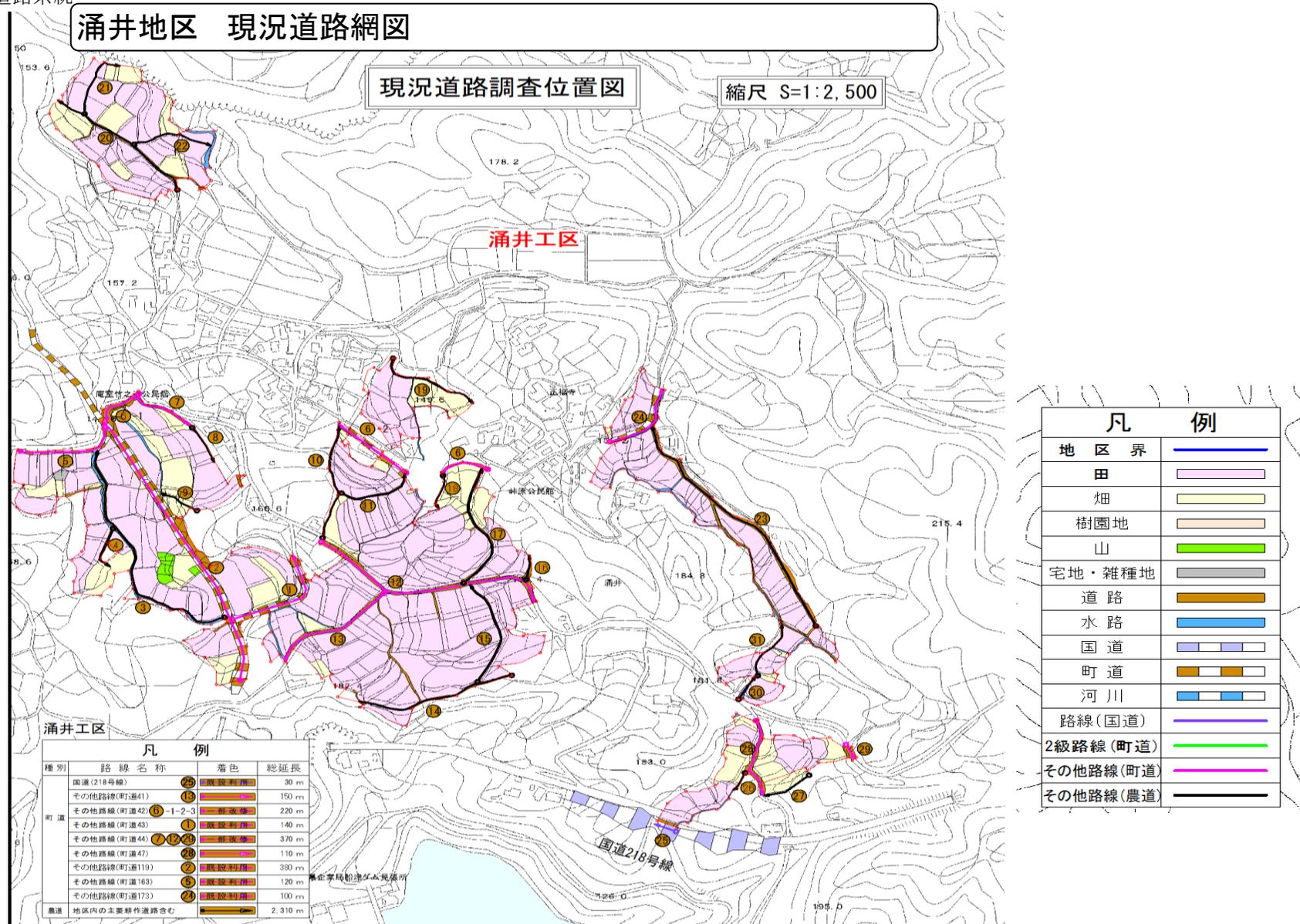
2. 改修を要する道路の一覧表

(第6表)

路線名	管理区分	延長 (m)	幅員(m)		路面構造	改修を必要とする理由	備考
			全幅	有効幅			
農道1	美里町	310.0	2.00	2.00	CO道路	区画整理に伴う改修	
農道2	美里町	60.0	1.90	1.90	CO道路	区画整理に伴う改修	
農道3	美里町	50.0	3.20	3.20	CO道路	区画整理に伴う改修	
農道4	美里町	50.0	1.20	1.20	砂利道路	区画整理に伴う改修	
農道5	美里町	160.0	2.20	2.20	CO道路	区画整理に伴う改修	
農道6	美里町	90.0	2.40	2.40	CO道路	区画整理に伴う改修	
農道7	美里町	180.0	2.00	2.00	砂利道路	区画整理に伴う改修	
農道8	美里町	140.0	2.10	2.10	CO道路	区画整理に伴う改修	
農道9	美里町	30.0	1.80	1.80	砂利道路	区画整理に伴う改修	
農道10	美里町	170.0	2.30	2.30	CO道路	区画整理に伴う改修	
農道11	美里町	50.0	2.00	2.00	砂利道路	区画整理に伴う改修	
農道12	美里町	120.0	2.20	2.20	CO道路	区画整理に伴う改修	
農道13	美里町	180.0	2.00	2.00	CO道路	区画整理に伴う改修	
農道14	美里町	90.0	1.20	1.20	砂利道路	区画整理に伴う改修	
農道15	美里町	90.0	2.00	2.00	CO道路	区画整理に伴う改修	
農道16	美里町	330.0	2.50	2.50	CO道路	区画整理に伴う改修	
農道17	美里町	30.0	2.40	2.40	CO道路	区画整理に伴う改修	
農道18	美里町	60.0	2.00	2.00	砂利道路	区画整理に伴う改修	
農道19	美里町	40.0	1.80	1.80	CO道路	区画整理に伴う改修	
農道20	美里町	80.0	1.20	1.20	砂利道路	区画整理に伴う改修	
町道(その他)	美里町	280.0	4.30	4.30	AS道路	区画整理に伴う改修	
町道(その他)	美里町	150.0	3.20	3.20	CO道路	区画整理に伴う改修	
町道(その他)	美里町	20.0	3.50	3.50	AS道路	区画整理に伴う改修	

上記以外の地区内道路については既設道路を利用する。

(1) 道路系統



第4節 地域農業の状況

①担い手

農業従事者:50代以上となっており、若い世代の耕作者がいない。

農業後継者:意向調査で「後継者有り」と明確に回答があったのは約34%となっている。現状では、後継者の見通しについては厳しいものの、整備を契機として農地の貸借が進むことが予想される。

②農業機械:農業経営をしている各農家が機械を所有し過剰投資になっている。

③農産物や経営規模

農産物:ほぼ稲作を中心とした営農を展開しており、地区内の約30%(4.0ha)が自己保全管理となっている。

経営規模:意向調査によると、規模拡大を志向している農家は10戸(16.1%)であった。

④農地(基盤整備):区画は小区画、狭小な道路、排水路は未整備、水源に乏しい。

第5節 地域環境の状況

(1) 自然環境:美里町は、熊本県の中央部に位置し、総面積 144.03 km²の約4分の3を森林が占める典型的な中山間地域となっている。

西部地区に一部平坦地が見られる一方、宅地や農地は少なく、宅地等は地域を東西に横切る国道218号をはじめとする主要道路に沿って点在し、南部地域には、標高1,000m級の山岳が連なり、一部は県立自然公園にも指定されている。

(2) 社会環境現状:美里町の人口は、令和2年時点で9,392人、世帯数は3,439戸となっている。平成16年に美里町が誕生した当時の人口は12,849人で、それ以降、減少し続け少子高齢化が進んでいる。そのため、町の労働力人口も減少し、さらに農業を含めた第一次産業に従事する人口は急速に減少しており、今後の農業生産活動の持続が懸念されている。

(3) 生産環境:美里町では、稲作を中心とした営農を行っている。しかしながら、農業従事者の高齢化や後継者の不足等の問題が今後の課題となっている。

(4) 文献調査により抽出された生物又は景観等:文献及び比較的近隣の農道及び区画整理整備事業での環境調査結果において重要な種として、鳥類2種、両生類1種、ほ乳類1種、昆虫類1種、魚類1種、貝類1種が確認されている。当地区でも同様に重要な種が確認される可能性がある。

第4章 一般計画

第1節 事業計画の要旨

(地区の問題点)

地形勾配は1/7～1/15と急峻で区画形状は未整備で不整形である。さらに区画面積は8a程度と狭いため農作業効率に支障が生じている。地区内の道路は2.0m程度と狭く農地に隣接していないほ場もあることから大型機械の導入、農産物・生産資材の搬入・搬出に支障をきたしているところである。地区内の用水についてはパイプラインでの灌漑となっているものの、全てのほ場に立ち上がりが設置されている状況ではないため、田越による灌漑を行っているほ場もある。地区内の排水路についても、田越しによる排水がほとんどで、降雨時には排水不良による法面崩壊が生じている。降雨により法面が洗堀され、流出した土砂がほ場に堆積している箇所も見られる。このため、農地の集団化、担い手の育成の阻害となっている。

(問題点を改善するための事業内容)

ほ場の大区画化や排水条件の改良、用水源確保を行うことで、耕地利用率の底上げを図るだけでなく、生産性、収益性の高い農地を確保する。また、耕地の集団化や担い手に対する農地集積を促進し、効率的な営農を実現することで、農業経営の安定向上を図る。

第2節 営農計画

本地区の営農計画は、本区画整理により標準区画を20aとすることで、農作業の効率化や営農コストの縮減を図り、地形条件に適応した生産条件の改善や地域の特性を活かした高収益作物の導入に取り組むことで、将来の担い手の確保、農地集積の促進を図り、地域農業の活力向上と持続的な農業の展開を図るものである。

(事業の実施による作付・生産量の増産、労働改善について、概要を説明する)

現況の農地利用は稲作のみとなっており、自己保全管理も見られることから、効率的な営農基盤とすることで農地利用を増やし、また乾田化した田で高収益作物を栽培することで農業経営の安定及び向上を図る計画となっている。

第3節 用水計画

1. 計画かんがい期間及び方式

かんがい日数 126 日 (5月15日～9月17日)
 かんがい方式 輪換田 たん水灌漑 方式
 輪換畑・畑 うね間灌漑

2. 計画用水量

(第7表-1)

項目 系統名	水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			その他		消費 水量 (m ³ /s)	損 失 率 (%)	粗用水量	
	普通期	代かき期	面 積 (ha)	一日当たり 計画平均 かん水深	平均間断 日 数 (日)	面 積 (ha)	一日当たり 計画平均 かん水深	平均間断 日 数 (日)	面 積 (ha)	計画平均 単位用水量 (mm/日)	面 積 (ha)			平 均 (m ³ /s)	最 大 (m ³ /s)
	計画平均単 位用水量 (mm/日)	計画代かき 単位用水量 (mm)		(mm/日)	(mm/日)										
パイプライン(筒川)	24.1	120	6.85	4.5	5	3.42	4.5	5	1.22				田15%	0.0349	0.0331
開水路(溪流)	24.1	120	0.63	4.5	5	0.32	4.5	5	0.07				田15%	0.0029	0.0032
計			7.48	9	10	3.74	9	10	1.29					0.0378	0.0363

3. 水源計画

有効雨量	65.3 千m ³ (灌漑期間合計)	灌漑効率	水田 (水稲)	85%	湛水灌漑
減水深	mm/day		(畑利用)	60%	地表(うね間)
管理用水	mm/day		畑	65%	地表(うね間)
日消費水量	1~4 mm				

(第7表-2)

消費水量	有効雨量	純用水量	粗用水量	現況利用可能水量			不足水量		水源依存量		水源工種	備考
				水源名	取水地点 利用可能量	ほ場利用 可能量	純不足 水量	全不足 水量	水源名	水量		
a (千m ³)	b (千m ³)	c=a-b (千m ³)	d=c/(1-α) (千m ³)		e (千m ³)	f (千m ³)	g=c-f (千m ³)	h=d-e (千m ³)		(千m ³)		損失率 : α
270.2	65.3	216.90	261.80	筒川掛かり	261.80	216.90						

第4節 排水計画

1. 計画基準雨量及び方式

基幹排水：時間雨量時間排除	66.6 mm/hr(1/10)	44.4 mm/hr(1/2)	Ⅱ熊本ブロックⅡ-A
基幹排水：4時間雨量4時間排除	138.4 mm/hr(1/10)	83.6 mm/hr(1/2)	Ⅱ熊本ブロックⅡ-A
排水方式：自然排水			

2. 計画排水量

(第8表)

項目 排水 系統名	流域面積 (ha)			全排水量 (m ³ /s)		単位排水量 (m ³ /s/ha)		排水先の施設能力		
	地区内	地区外	合計	自然排水	機械排水	自然排水	機械排水	水路	樋門	ポンプ
支排1号	2.00	0.81	2.81	0.2137		0.0760		0.2137		
支排2号	1.19	1.29	2.48	0.0938		0.0378		0.0938		
支排3号	6.73	6.34	13.07	1.0526		0.0805		1.0526		
支排4号	0.50		0.50	0.0394		0.0788		0.0394		
支排5号	0.44		0.44	0.0347		0.0789		0.0347		
支排6号	0.17		0.17	0.0134		0.0788		0.0134		
支排7号	1.40	0.48	1.88	0.1435		0.0763		0.1435		
支排8号	1.00		1.00	0.0788		0.0788		0.0788		
支排9号	0.41	0.55	0.96	0.5196		0.5413		0.5196		
支排10号	0.34	1.44	1.78	0.4353		0.2446		0.4353		
支排11号	1.93	9.23	11.16	0.9768		0.0875		0.9768		
支排12号	0.08	2.88	2.96	0.1641		0.0554		0.1641		
支排13号	0.49	1.86	2.35	0.1673		0.0712		0.1673		
支排14号	0.58	0.41	0.99	0.0741		0.0748		0.0741		
支排15号	0.39	0.65	1.04	0.0757		0.0728		0.0757		
計	17.65	25.94	43.59	4.0828				4.0828		

第5節 道路計画

1. 幅員

幅員の決定については、別途実施したアンケート結果により車両機種を把握し、また、営農上では、水稻及び飼料作物(牧草)が主に作付けされており、将来の営農機械を考慮した上で幅員(道路幅員 B=4.0[3.0]m)の決定を行っている。

なお、道路線形の通りを良くすることで地形条件の観点から残地が発生する可能性があり、当該残地及び乗り入れ口や路肩を利用することで離合も可能となる。

2. 舗装

舗装については、基本的に砂利舗装で計画を行うが、町道の付け替え及び既設利用区間はアスファルト舗装とし、急傾斜路線は品質低下を考慮してコンクリート舗装にて計画している。将来の営農計画を見据えるとともに、地域住民の利用形態や交通の安全性を確保できる舗装計画を行っている。

3. 接続

その他町道については、全面改修及び既設利用を行う計画としている。

第6節 農用地整備計画

1. 区画整理

(1) 区画の形状

(標準区画) : 長辺(70)m×短辺(30)m 0.21ha(20a以上の割合:68%)とする。

(2) 表土扱い

表土扱い面積:A=12.6ha(農地) 表土扱い厚:t=20cm

2. 暗渠排水

暗渠排水面積:A=12.6ha 被覆材:コンクリート砕石

3. 客土 該当なし

計画平均減水深 mm/日

計画作土厚 cm(平均)

10a当たりの客土量 m³

第7節 老朽ため池改修計画

1. 洪水吐改修計画

計画洪水量

該当なし

.....

.....

.....

2. 堤体補強計画

該当なし

.....

.....

.....

3. 取水施設改修計画

該当なし

.....

.....

.....

第5章 主要工事計画

第1節 用水施設

1. 貯水池

該当なし

(第9表-1)

名称	所在地	構造			有効貯水量 (千m ³)	かんがい 面積 (ha)	維持管理の方法	耐用年数
		型式	堰長 (m)	堰高 (m)				

2. 頭首工

該当なし

(第9表-2)

名称	所在地	取水	構造			取水量		かんがい 面積(ha)	維持管理 の方法	耐用年数
		河川名	型式	堰長	堰高	代掻期	普通期			

3. 揚水機 該当なし

(第9表-3)

名称	所在地	水源及び その状況	揚水機			原動機			揚水量 (m ³ /min/台)	かんがい 面積	建物等 附帯施設	維持管理 方法	耐用年数
			種類	口径 (mm)	台数	種類	動力 (kw)	台数					

4. 用水路

(第9表-4)

水路名	延長 (m)	通水量 (m ³ /s)	構造	規格	附帯構造物	維持管理の方法	耐用年数
支管1号	75	0.0242	硬質塩化ビニール管	VU φ100~125mm			
支管2号	467	0.0408	硬質塩化ビニール管	VU φ100~250mm			
支管2-1号	162	0.0225	硬質塩化ビニール管	VU φ100~125mm			
支管2-2号	55	0.0006	硬質塩化ビニール管	VU φ75mm			
支管3号	245	0.0107	硬質塩化ビニール管	VP φ75~100mm			
支管4号	475	0.0574	硬質塩化ビニール管	VP φ100~200mm			
支管4-1号	128	0.0166	硬質塩化ビニール管	VP φ75~100mm			
支管4-2号	44	0.0041	硬質塩化ビニール管	VP φ100mm			
支管4-3号	354	0.0162	硬質塩化ビニール管	VP φ100~125mm			
支管4-4号	89	0.0080	硬質塩化ビニール管	VP φ75~100mm			
支管5号	163	0.0059	硬質塩化ビニール管	VU φ75~100mm			
支管5-1号	69	0.0007	硬質塩化ビニール管	VU φ100mm			
支管6号	318	0.0132	硬質塩化ビニール管	VP φ100mm			
支管6-1号	86	0.0086	硬質塩化ビニール管	VP φ75~100mm			
支管6-2号	64	0.0086	硬質塩化ビニール管	VP φ75~100mm			
支用1号	341	0.0158	NDベンチ	250型			
計	3,135						

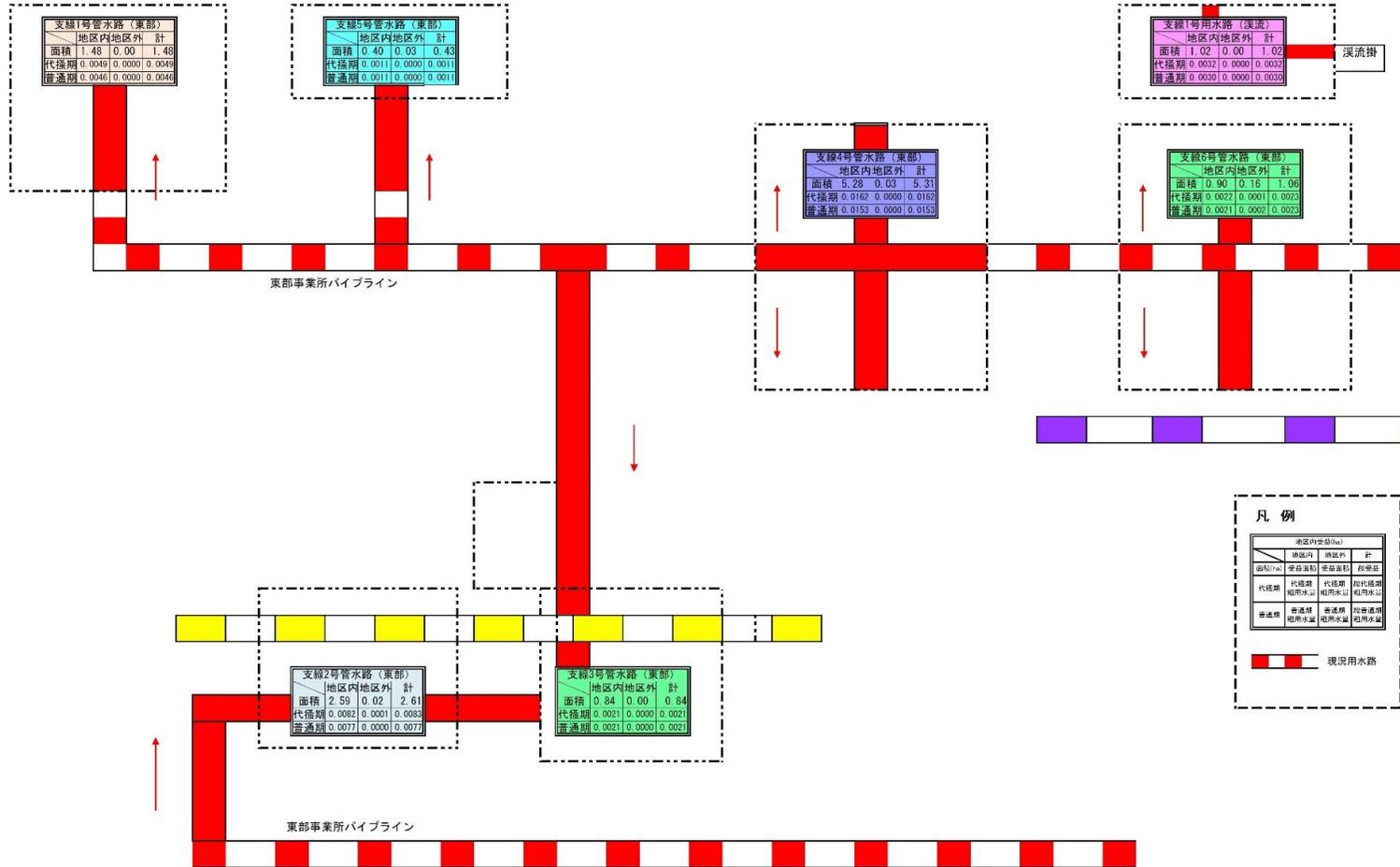
5 計画用水系統

(22-1)ページの計画平面図を参照

5 計画用水系統

(第9表-4)

計画用水模式図



第2節 排水施設

1. 排水樋門

該当なし

(第10表-1)

項目 名称	所在地	型式	構造	内水位 (m)	外水位 (m)	排水量 (m ³ /s)	備考
計							

2. 排水機

該当なし

(第10表-2)

名称	所在地	原動機	実揚程 (m)	排水量 (m ³ /S)	吐き出し 河川名	流域面積 (ha)	建物等の 附帯施設	維持管理 の方法	耐用年数
		種類口径台数 種類台数能力							

3. 排水路

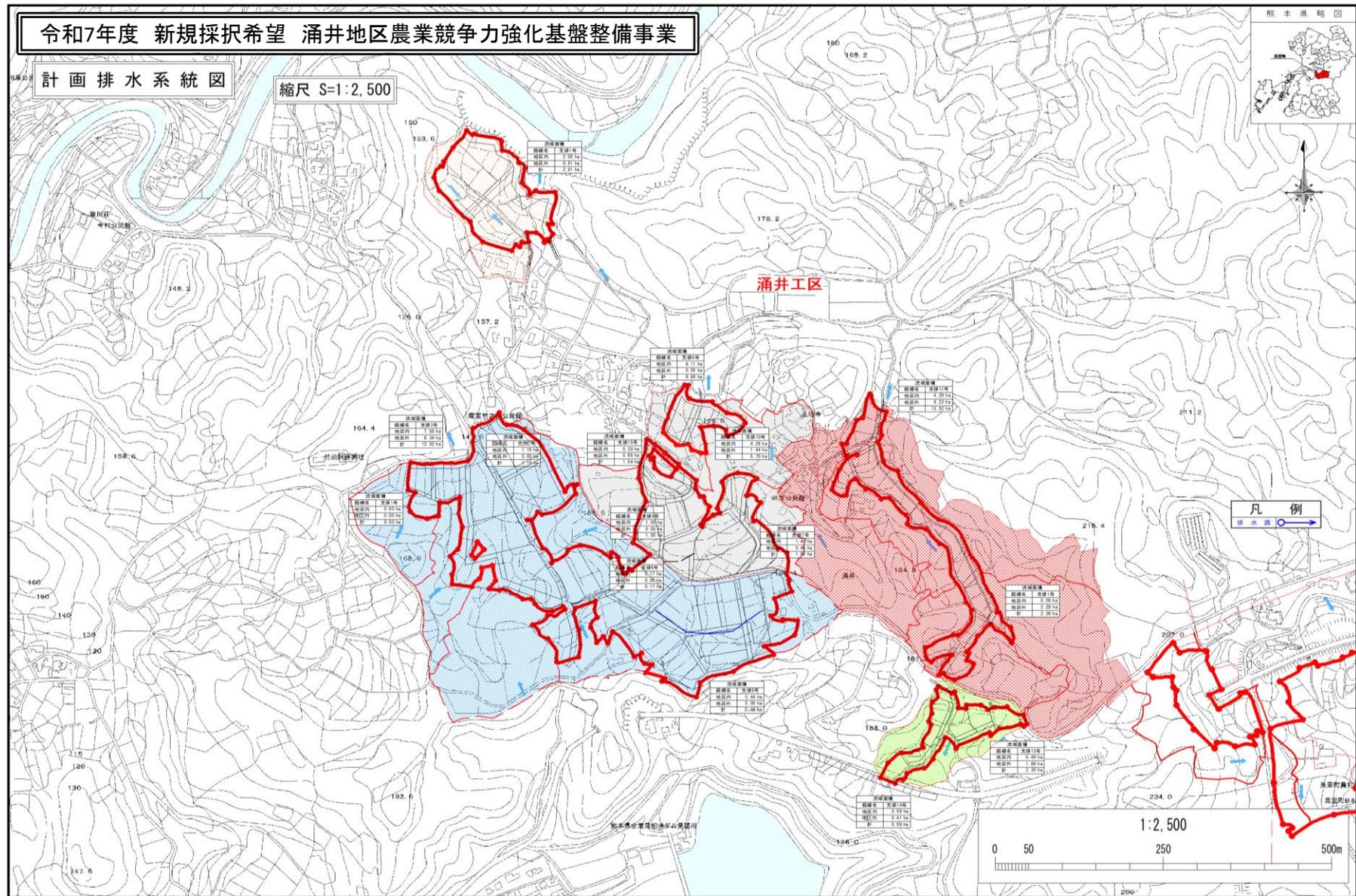
(第10表-3)

水路名	延長 (m)	排水量 (m ³ /s)	構造	規格	附帯構造物	維持管理の方法	耐用年数
支排1号	188.0	0.026	コンクリート二次製品	排水トラフ400型	BOX・C	美里町	40年
支排2号	96.0	0.053	コンクリート二次製品	排水トラフ300型	BOX・C	美里町	40年
支排3号	598.0	0.365	コンクリート二次製品	排水トラフ 300,400,500,600型 既設 利用L=63m	BOX・C	美里町	40年
支排4号	92.0	0.086	コンクリート二次製品	排水トラフ300型	BOX・C	美里町	40年
支排5号	66.0	0.169	コンクリート二次製品	排水トラフ300型		美里町	40年
支排6号	70.0	0.295	コンクリート二次製品	排水トラフ300型	BOX・C	美里町	40年
支排7号	181.0	0.051	コンクリート二次製品	排水トラフ300型	BOX・C	美里町	40年
支排8号	90.0	0.224	コンクリート二次製品	排水トラフ300型		美里町	40年
支排9号	72.0	0.471	コンクリート二次製品	排水トラフ300,500型	BOX・C	美里町	40年
支排10号	20.0	0.056	コンクリート二次製品	排水トラフ500型		美里町	40年
支排11号	505.0	0.386	コンクリート二次製品	排水トラフ400,600型	BOX・C	美里町	40年
支排12号	28.0	0.335	コンクリート二次製品	排水トラフ300型	BOX・C	美里町	40年
支排13号	68.0	0.190	コンクリート二次製品	排水トラフ300型	BOX・C	美里町	40年
支排14号	166.0	0.080	コンクリート二次製品	排水トラフ300型	BOX・C	美里町	40年
支排15号	40.0	0.080	コンクリート二次製品	排水トラフ300型	BOX・C	美里町	40年
計	2,280.0						

4 計画排水系統

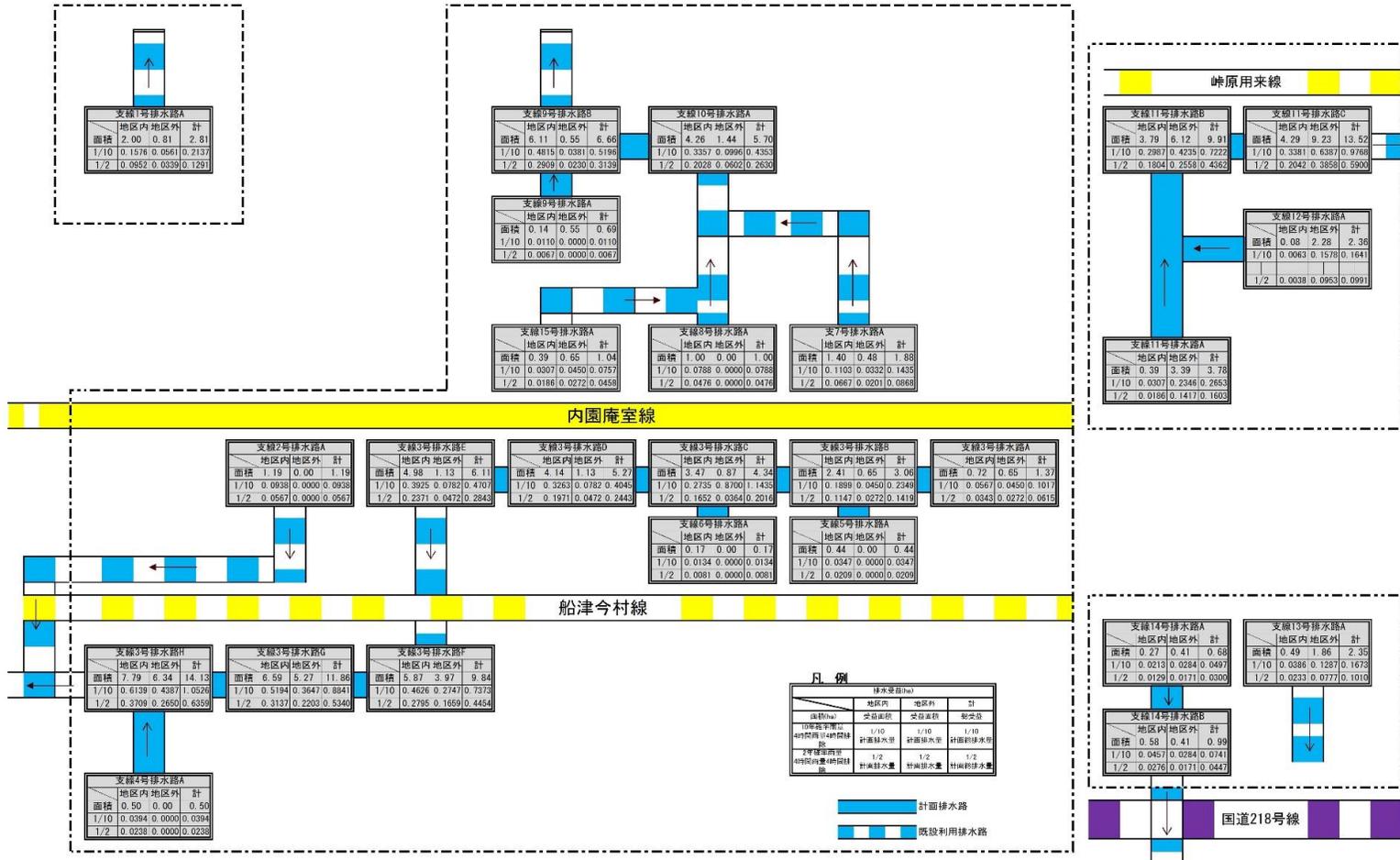
(24-2~24-3)ページの計画平面図を参照

4 計画排水系統



4 計画排水系統

計画排水模式図



第3節 道路

1. 道路

(第11表)

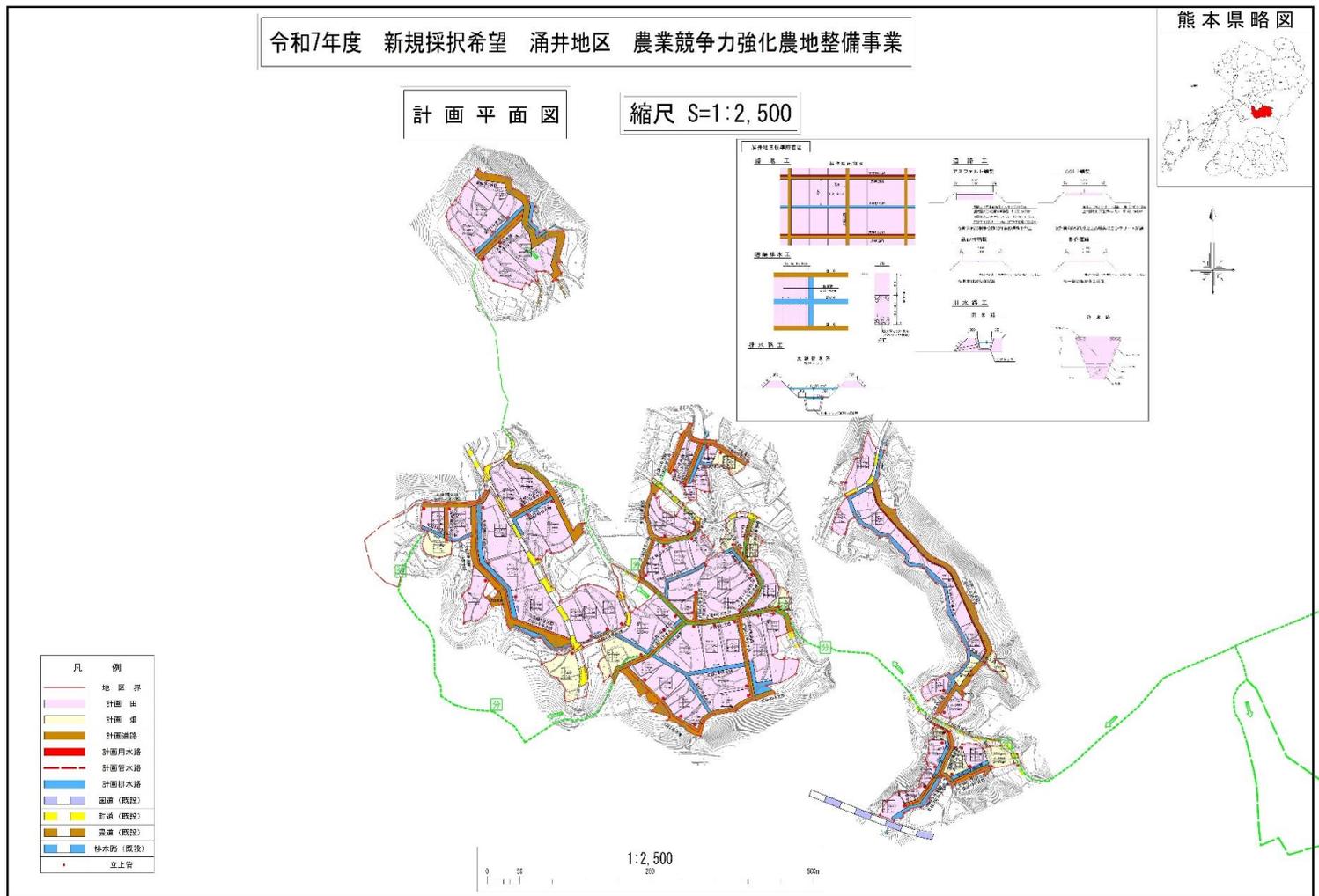
路線名	延長 (m)	全幅(m) (幅員)	路面構造	附帯構造物			維持管理の方法	耐用年数
				橋梁	暗渠	その他		
支道1号	96.0	4.0(3.0)	コンクリート舗装				美里町	CO:15年 路床:40年
支道2号	283.0	4.0(3.0)	砂利舗装				美里町	砂利:15年 路床:40年
支道3号	175.0	4.0(3.0)	コンクリート舗装				美里町	CO:15年 路床:40年
支道4号	71.0	4.0(3.0)	コンクリート舗装				美里町	CO:15年 路床:40年
支道5号	110.0	4.0(3.0)	コンクリート舗装				美里町	CO:15年 路床:40年
支道5-1号	49.0	4.0(3.0)	砂利舗装				美里町	砂利:15年 路床:40年
支道6号	292.0	4.0(3.0)	コンクリート舗装 L=97m 砂利舗装 L=195m				美里町	CO:15年 砂利:15年 路床:40年
支道7号	146.0	4.0(3.0)	コンクリート舗装				美里町	CO:15年 路床:40年
支道8号	384.0	4.0(3.0)	砂利舗装				美里町	砂利:15年 路床:40年
支道9号	281.0	4.0(3.0)	アスファルト舗装				美里町	AS:10年 路床:40年
支道9-1号	40.0	4.0(3.0)	コンクリート舗装				美里町	CO:15年 路床:40年
支道10号	31.0	4.0(3.0)	コンクリート舗装				美里町	CO:15年 路床:40年
支道11号	163.0	4.0(3.0)	砂利舗装				美里町	砂利:15年 路床:40年
支道11-1号	20.0	3.0(2.5)	コンクリート舗装				美里町	CO:15年 路床:40年

路線名	延長 (m)	全幅(m) (幅員)	路面構造	附帯構造物			維持管理の方法	耐用年数
				橋梁	暗渠	その他		
支道12号	152.0	4.0(3.0)	砂利舗装				美里町	砂利:15年 路床:40年
支道13号	81.0	4.0(3.0)	コンクリート舗装				美里町	CO:15年 路床:40年
支道14号	177.0	4.0(3.0)	砂利舗装				美里町	砂利:15年 路床:40年
支道14-1号	67.0	4.0(3.0)	砂利舗装				美里町	砂利:15年 路床:40年
支道15号	145.0	4.0(3.0)	コンクリート舗装				美里町	CO:15年 路床:40年
支道16号	83.0	4.0(3.0)	コンクリート舗装				美里町	CO:15年 路床:40年
支道17号	458.0	4.0(3.0)	コンクリート舗装 L=115m 砂利舗装 L=343m				美里町	CO:15年 砂利:15年 路床:40年
小計	3,304.0							

2. 路線配置図

(25-2) ページの計画平面図を参照

2. 路線配置図



第4節 農用地整備施設

1. 区画整理

(第12表-1)

工 区 名	面積 (ha)	整 地 工 標準区画(m)	表土扱い 厚さ(cm)	備 考
涌井	12.6	70 × 30	20	
計	12.6			

2. 暗渠排水

(1) 暗渠排水

(第12表-2-1)

項目 区分	面積 (ha)	集水渠				排水渠						集水渠出口以下の 排水施設	備考
		勾配	管種	管径 (mm)	延長 (m/ha)	勾配	管種	管径 (mm)	深さ (m)	間隔 (m)	延長 (m/ha)		
涌井	12.6					1/350	合成樹脂管	φ50~60	0.6~0.8	10	942	支線排水路	

(2) 心土破碎

該当なし

(第12表-2-2)

項目 区分	面積 (ha)	改良深 (m)	破碎間隔 (m)	工法	備考

3. 客土

該当なし

(第12表-3)

区分 \ 項目	面積 (ha)	客土量 (m ³)	土取場土量 (m ³)	運搬距離 (km)	運搬方法	備考
計						

4. 除礫

該当なし

(第12表-4)

区分 \ 項目	対象土層の厚さ (cm)	haあたり標準除礫量 (m ³ /ha)	面積 (ha)	工法	備考

第5節 老朽ため池改修施設

1. 貯水池

該当なし

(第12-5表)

名 称					位 置			
堤 体	型 式	流 域 (km ²)	堤 高 (m)	堤 長 (m)	堤 体 積 (m ³)	貯 水 量 (千m ³)		備 考
						総貯水量	有効貯水量	
洪 水 吐	型 式	洪 水 量 (m ³ /s)	取 水 施 設	型 式	取 水 量 (m ³ /s)	放 流 施 設	型 式	放 流 量 (m ³ /s)

2. 堤体補強施設

(1) のり面保護施設

該当なし

.....

.....

.....

(2) 漏水防止工

該当なし

.....

.....

.....

第6章 附帯工事計画

該当なし

.....

.....

.....

.....

.....

.....

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

着手	令和	8年	4月
完了	令和	10年	3月

第8章 環境との調和への配慮

◆地域の環境評価に関する事項

熊本県の中央に位置する美里町は、標高の高い連山を背にし、緑川の溪谷を囲む形となっており、西方の海岸線から約30kmも内陸にあたる。このような点から海陸風の影響はなく、夏は暑く、冬は寒く積雪するという特徴を持っている。また、美里町は約4分の3を森林が占める中山間地域で国有林を有しており、国有林の山腹に湧き出る「七郎次水源」は、天然のミネラルウォーターとして熊本名水百選に数えられている。

◆環境保全の基本方針

土地改良法により「環境との調和への配慮」が事業実施の原則として位置づけられている。また、熊本県は熊本県環境基本条例第6条第1項に基づき、熊本県環境基本指針を策定しており、「本県の豊かな自然の保全とそこに棲む多様な野生生物の保護を図り、人間と自然が共生し熊本の恵みを未来に引き継ぐ自然共生社会を目指す」ことに配慮し、事業を実施することとなっている。

◆生体系への配慮

文献調査により抽出された生物又は景観等：文献及び比較的近隣の農道及び区画整理整備事業での環境調査結果において重要な種として、鳥類2種、両生類1種、ほ乳類1種、昆虫類1種、魚類1種、貝類1種が確認されている。当地区でも同様に重要な種が確認される可能性がある。そのため本地区における営農と環境の調和を図る上で、事業実施時において詳細な環境調査を行い、重要な種が確認された場合は配慮した対策を行う。

◆景観への配慮

美里町は国有林に囲まれ、熊本名水百選に数えられる「七郎次湧水源」を有している自然豊かな中山間地帯であることから、地域景観の保全に当たっては、今後営農作物に配慮した上で区画形状や施設の色・形・素材などを検討し、周辺の農村景観の保全と調和を図る。

◆工事施工時における配慮

工事施工時においては、設計指針に示された環境配慮事項を順守するとともに、二次的、間接的な影響が周辺環境に及ばないように、水質汚染・騒音・振動等に配慮した工法を採用する。

第9章 換地計画の概要

第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方

地積の基準：換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画決定の日の登記簿地積とする。但し、上記の日から3ヶ月以内に測量士・測量士補又は、土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申出があった場合は、その申出のあった地積とする。

経営調査の方法：農家の意向調査等

土地評価方法：項目別配点方式による。(換地委員会において土地評価基準を作成し、土地の評価を行う。)

清算方法：比例地積清算方式

第2節 換地区の設定

1. 換地区の名称、所在及び面積

(第13表-1)

換地区名	換地区の所在	面積 (ha)
全換地区	熊本県下益城郡美里町	17.3

2. 換地区を設定する理由

該当なし

.....

.....

.....

.....

第3節 換地計画樹立の基本方針

1. 従前の土地の地積の基準

(第13表-2)

換 地 区 名	地 積 の 基 準
全換地区	換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画決定の日の登記簿地積とする。 但し、上記の日から3ヶ月以内に測量士・測量士補又は、土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申出があった場合は、その申出のあった地積とする。

3. 農用地集団化の方針

(第13表-4)

区分 換地区名	地帯別、グループ別 団地の設定	個人別換地の方法		
		位置の選択方法	1戸当たり目標団地数	区画畦畔の取扱い
全換地区	地目別集団化	各人の従前の土地が最も密集した位置を中心に定める	1～3団地	移動畦畔は配分面積に応じて移動して定めるものとする。

4. 非農用地の換地方法

該当なし

(第13表-5)

区分 換地区名	種類	非農用地区域の位置の概略	面積 (㎡)	換地の手法	換地取得予定者	その他

第4節 土地の評価及び清算の方法

1. 評価の方法

項目別配点方式

2. 清算の方法

比例地積清算方式

第5節 換地計画樹立の年度計画

(第13表-6)

区分 換地区名	一時利用地の 指定予定年度	換地計画の 決定予定年度	換地処分 予定年度	備考
全換地区	令和9年度～ 令和11年度	令和13年度	令和13年度	

第6節 換地処分の時期に関する特則

全換地区については、換地区全部について区画変更工事が完了し、確定測量が行われたときは、

土地改良法第89条の2第10項で準用する同法第54条第2項ただし書の規定に基づき、換地処分を行うことができる。

第10章 事業費の総額及び内訳

(第14表-1)

単位;千円

主要工事費	761,000
測量及び設計費	100,000
用地費及び補償費	35,000
換地費	31,000
附帯工事	
小計	927,000
地方事務費(5%)	46,350
計	973,350

事業費の負担区分及び地元負担の基準

(第14表-2)

	事業費	事務費
国庫負担予定額	509,850 千円 (55.0%)	
県費負担予定額	254,925 千円 (27.5%)	46,350 千円 (5.0%)
市町村負担予定額	92,700 千円 (10.0%)	
地元負担予定額	69,525 千円 (7.5%)	
計	927,000 千円	46,350 千円

第11章 効 用

(第15表)

区 分 \ 項 目	年総効果(便益)額 (千円)	現況年総農業所得額 (千円)	年総増加農業所得額	備 考
食料の安定供給の確保に関する効果	25,306		24,783	作物生産効果
食料の安定供給の確保に関する効果	21,749		23,093	営農経費節減効果
食料の安定供給の確保に関する効果	-1,409		-596	維持管理費節減効果
農業の持続的発展に関する効果				耕作放棄地防止効果
多面的機能の発揮に関する効果	9,442			水源涵養効果
その他の効果	4,888			国産農産物安定供給効果
その他の効果	7,863			水田貯留機能向上効果
計	67,839		47,280	令和 6 年度単価

総費用(現在価値): 978,824 千円

総便益(現在価値): 1,321,825 千円

総費用総便益比 = 1,321,825 千円 / 978,824 千円 = 1.35

第12章 関連する事業

該当なし

第13章 施設の管理

(第16表)

施設の種類	工事完了後の管理者	管理開始の手段	管理開始の時期
農業用道路	美里町	財産譲与又は、管理委託	供用開始時
農業用用水路(開水路)	美里町	財産譲与又は、管理委託	供用開始時
農業用用水路(パイプライン)	美里町土地改良区	財産譲与又は、管理委託	供用開始時
農業用排水路	美里町	財産譲与又は、管理委託	供用開始時

(1) 管理開始の特例

ただし、財産譲与、換地処分前であっても、管理を委託された者は、ただちに管理を開始するものとする。

(2) 財産譲与・換地処分の条件

なし

第14章 現況・計画図面

1. 現況平面図
2. 計画平面図
3. 土地利用計画図
4. 主要構造図

[その他の例]

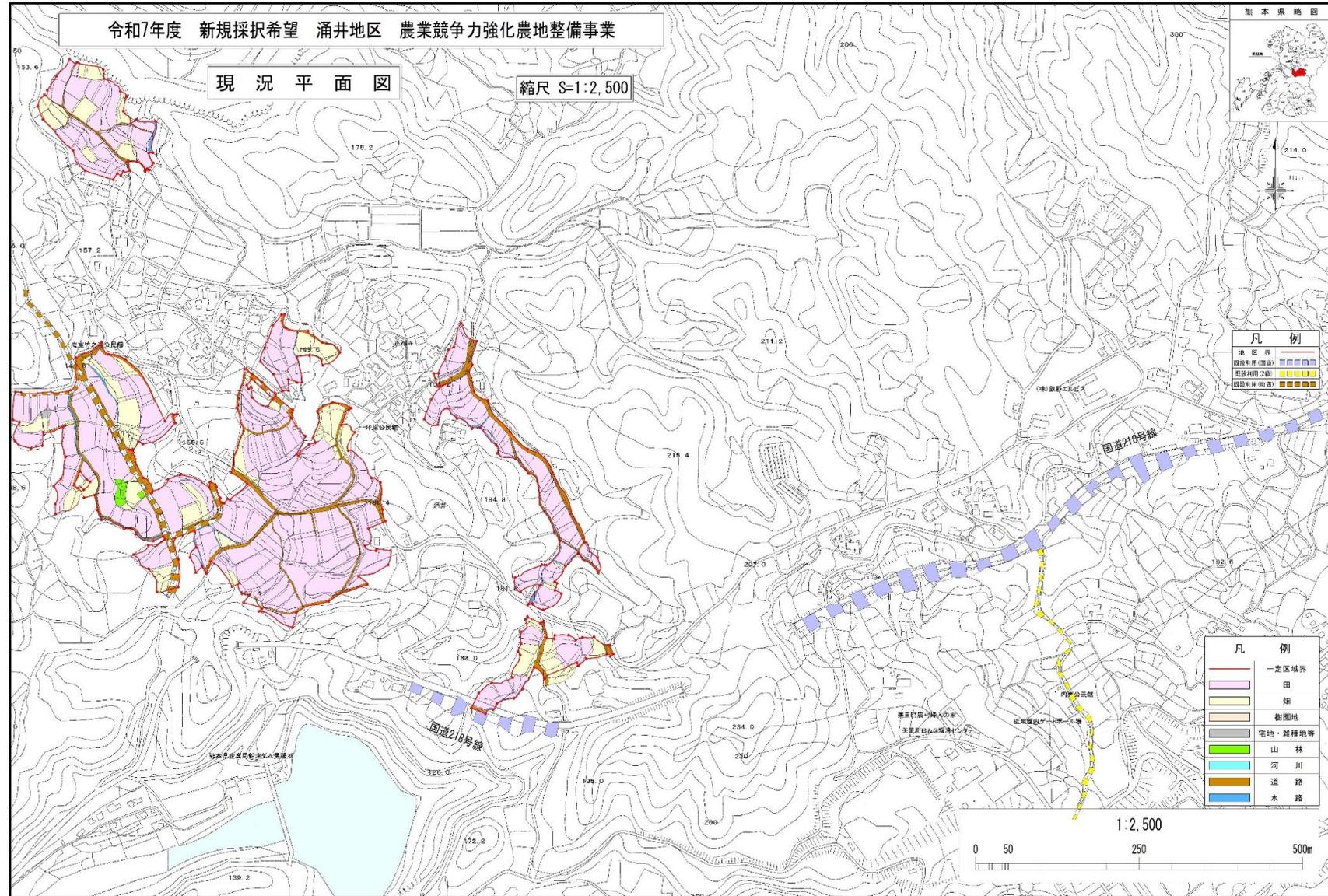
[計画平面図と土地利用計画図を兼ねる場合]

1. 現況平面図
2. 計画平面図及び土地利用計画図
3. 主要構造図

[計画変更の場合]

1. 現況平面図
2. 変更計画平面図及び変更土地利用計画図
3. 主要構造図

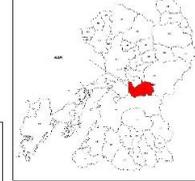
現況平面図



計画平面図

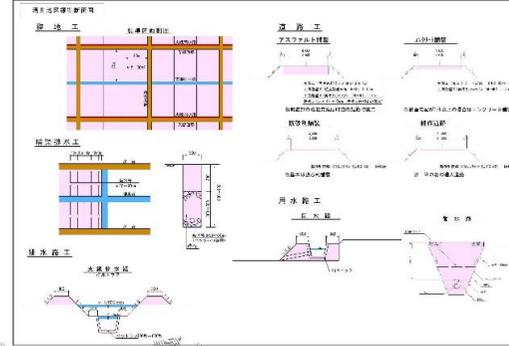
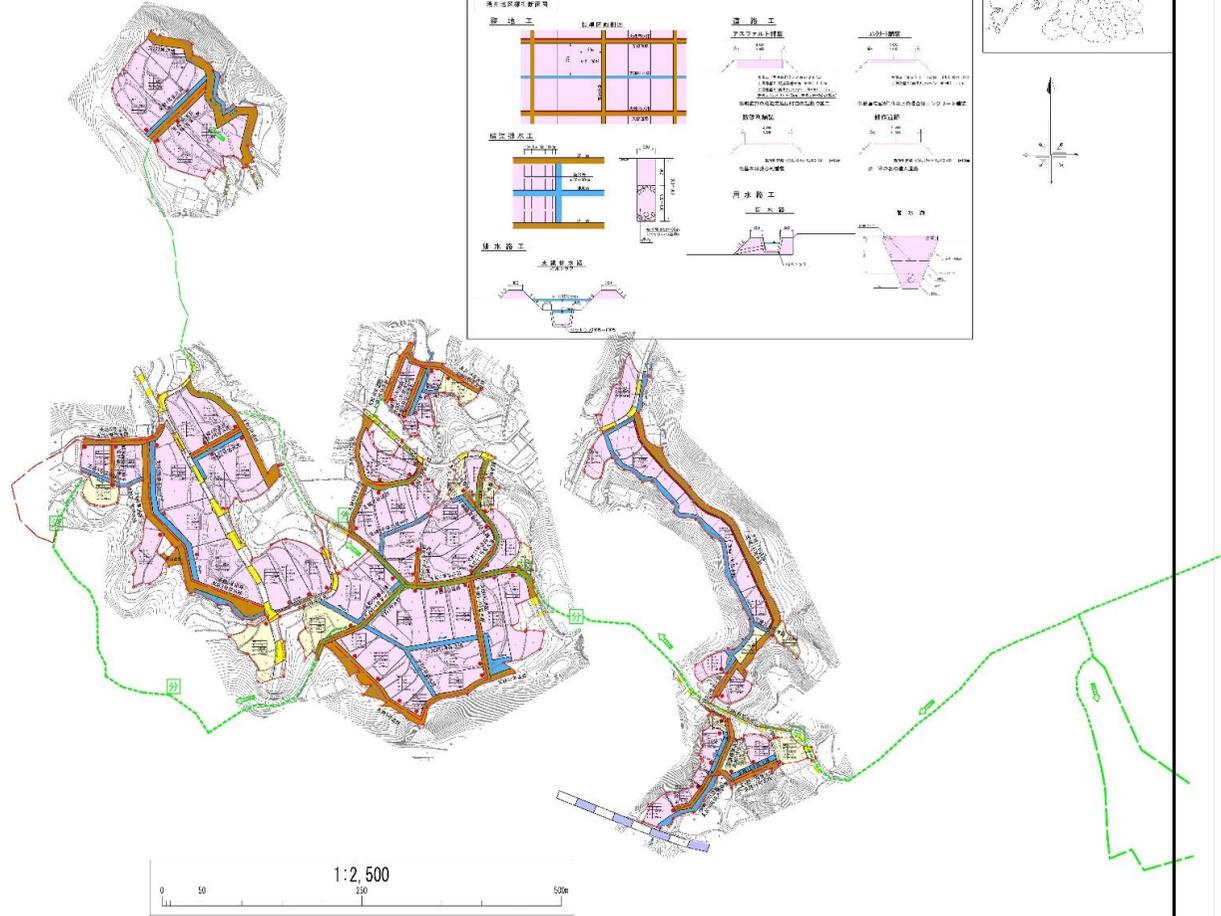
令和7年度 新規採択希望 涌井地区 農業競争力強化農地整備事業

熊本県略図

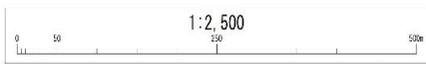


計画平面図

縮尺 S=1:2,500



凡 例	
	地区界
	計画田
	計画池
	計画道橋
	計画用水路
	計画管水路
	計画排水路
	国道(概設)
	町道(概設)
	農道(概設)
	排水路(概設)
	立上管



土地利用計画図

